SunSun

取扱説明書

電動ハイブリッド自転車　品番 NewLaLaM-36V-Li

※イラストはイメージ図です。かたちやデザインがお求め頂いた商品と異なる場合が御座います。

このたびは、電動ハイブリッド自転車「NewLaLa-M」をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
取扱説明をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」はご使用前に必ずお読みください。お子様がお使いになる場合は、保護者の方が此の取扱説明を必ずお読み頂き、正しい乗り方をご指導ください。

◆『NewLaLa-M』の特長◆

① SunSun(サンサン)Midship(ミッドシップ)Moyor(モーター)System(システム)テクノロジーとSIMANO ギヤーの組み合わせで高トルク！楽々坂道走行や高回転！高速走行を両立した日本初フル電動ハイブリッド自転車です。

② アルミニュウムフレーム、アルミニュウムリムや新開発！高出力、大容量、軽量のリチウムポリマーバッテリーによりバッテリーが切れても、普通の自転車のように軽々走行できます。

③ 「NewLaLa-M」には輸出仕様の高出力モーターを使用した、こがずに走るアクセル付きフル電動ハイブリッド自転車と日本国内用に出力制限、アクセルの削除をした電動ハイブリッド自転車の２種類があります。ご使用の目的によってご選択頂けます

③ フル電動走行、アシスト走行の切り替えスイッチ付きご使用の目的に応じて切り替えが可能です。

＜アクセル付きフル電動ハイブリッド自転車とは＞

こがずに走行可能な高出力モーターでアクセル走行が可能な自転車です。ヨーロッパ、アメリカ(一部地域を除く)や中国などでは近年非常に人気の自転車ですが日本の現行道路交通法制度上では公道での仕様は認められていません。公園、工内など、私有地内に限定して使用できます。(2012 年 9 月現在)

＜電動ハイブリッド自転車＞

ペダルを回転させるとモーター(補助力)が働き。普通の自転車の約半分の踏力で走行できます。補助力は約 24km/h でゼロになります。日本の公道でご使用できます。

◆ はじめに ◆

安全上のご注意(1)　必ずお守り下さい

＜本体　警告！＞
■サドルやハンドルは「引き上げ限界線」が見える状態で乗らない。
■改造や分解、また指定以外の注油はしない。
■ハブステップなどの突起物を装着しない。
■調整後の締め付けを確認せずに乗らない。

＜バッテリー(電池) 危険！＞
■火中に投げ入れたり加熱しない
■分解や改造はしない
■他の機器に使用しない
■(+)と(−)を金属等で接触させない。
■充電には専用充電器を使用する。

＜バッテリー(電池)　警告！＞
■水に入れたり水中に投下しない。
■傷ついたまま使用しない

＜充電器　危険！＞
■分解や改造はしない
■衝撃を与えたり、落下や水濡れをさせない
■専用バッテリー(電池)以外には使用しない

＜充電器　警告！＞
■電源コードや電源プラグを破損するような事はしない。
■コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない。
■幼児やペットが触れるところに放置しない
■濡れた手でプラグの抜き差しはしない。
■充電端子や電源プラグのほこり等は定期的にとる。

＜充電器　注意！＞
■充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない。
■充電器は不安定な場所に設置しない。
■充電中はカバーをしたり、上に物を置かない。

安全上のご注意(2)　必ずお守り下さい

＜こんな乗り方は、やめましょう！＞

■巻き込みやすい物を車輪やギアに接近させて乗らない
　（ラッパズボン、長いスカート、マフラー、傘やペットのヒモなど）
■雨、風、雪のひどいときは乗らない。
■カーブで曲がる側のペダルを下げない。
■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない。
■運動機能が低下するものを採取したときは乗らない。
　（アルコール、睡眠薬、かぜ薬など、）
■回転物に手を触れない
（ギア・車輪・チェーン、モーターなど）
■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない。
■滑りやすいところでは乗らない。
（積雪や凍結した道路、鉄板やぬかるみなど）
■合図以外はハンドルから手を離さない。
　（傘などを手に持って乗らない）
■車の横を走るときは注意する。
■夜間や視界の悪いときは、無灯火で乗らない。

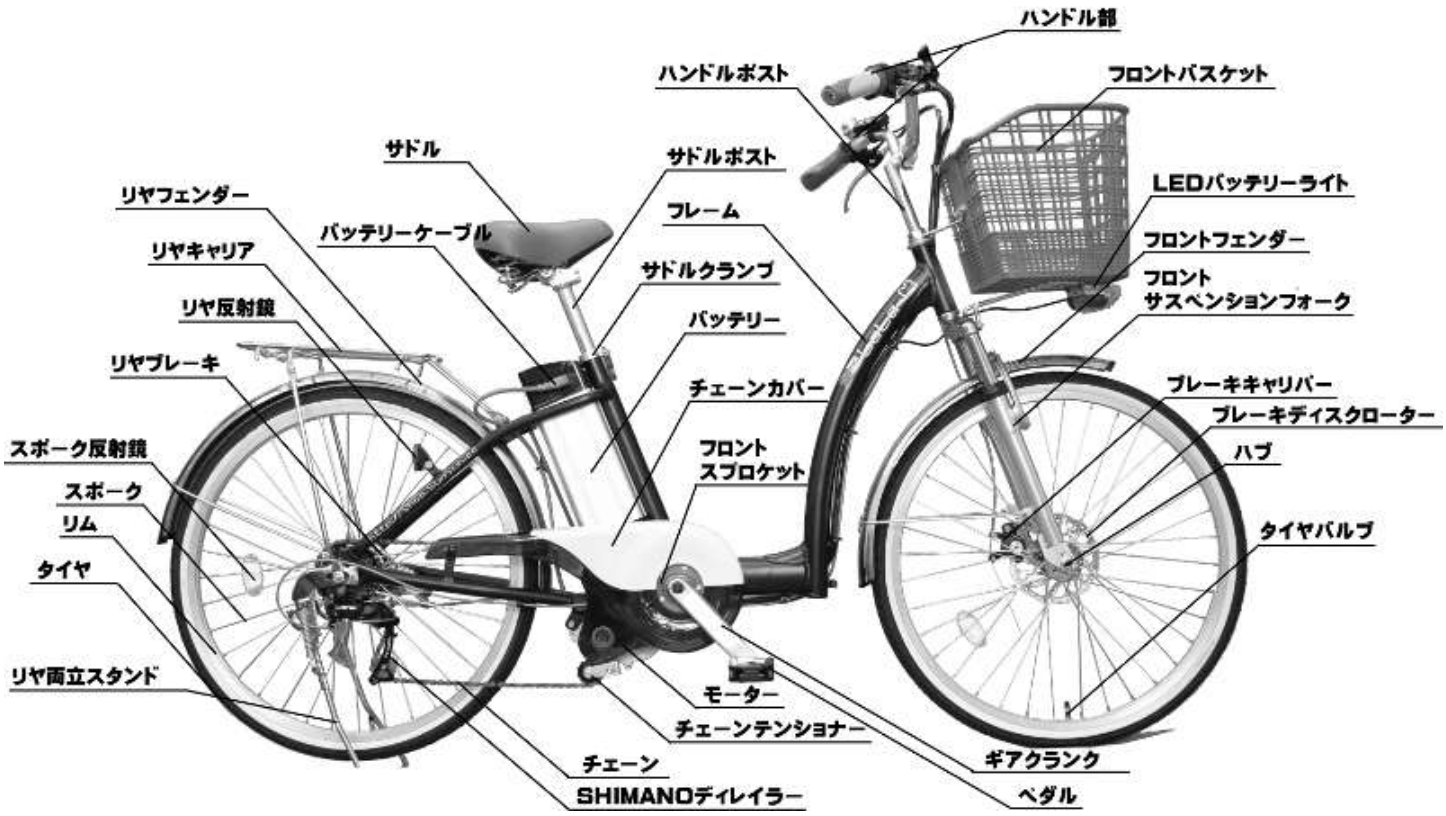
安全上のご注意(3)　必ずお守り下さい

＜乗る前に＞

■まず体に合わせましょう。
（サドル高、ハンドル高を調整する）
■必ず点検を
（必ず取扱説明書をよく読で点検して下さい）
■正しい服装で
（チェーンやギアに服装が巻き込まれないよう必ずズボンのすそをバンドなどで止める）
■乗る練習は
（練習する場合は広い安全な場所でよく練習してからお乗り下さい）

各部のなまえ(1)

＜本体部＞



＜ハンドル部＞

＜バッテリー＞

＜充電器＞

充電しましょう

＜バッテリーロック解除＞

■写真のようにカギを左に押し回しロックを解除します。

＜サドルポップアップ＞

■写真のようにサドルロック解除レバーを引き上げサドルをアップします。

＜バッテリーを引き抜きます＞

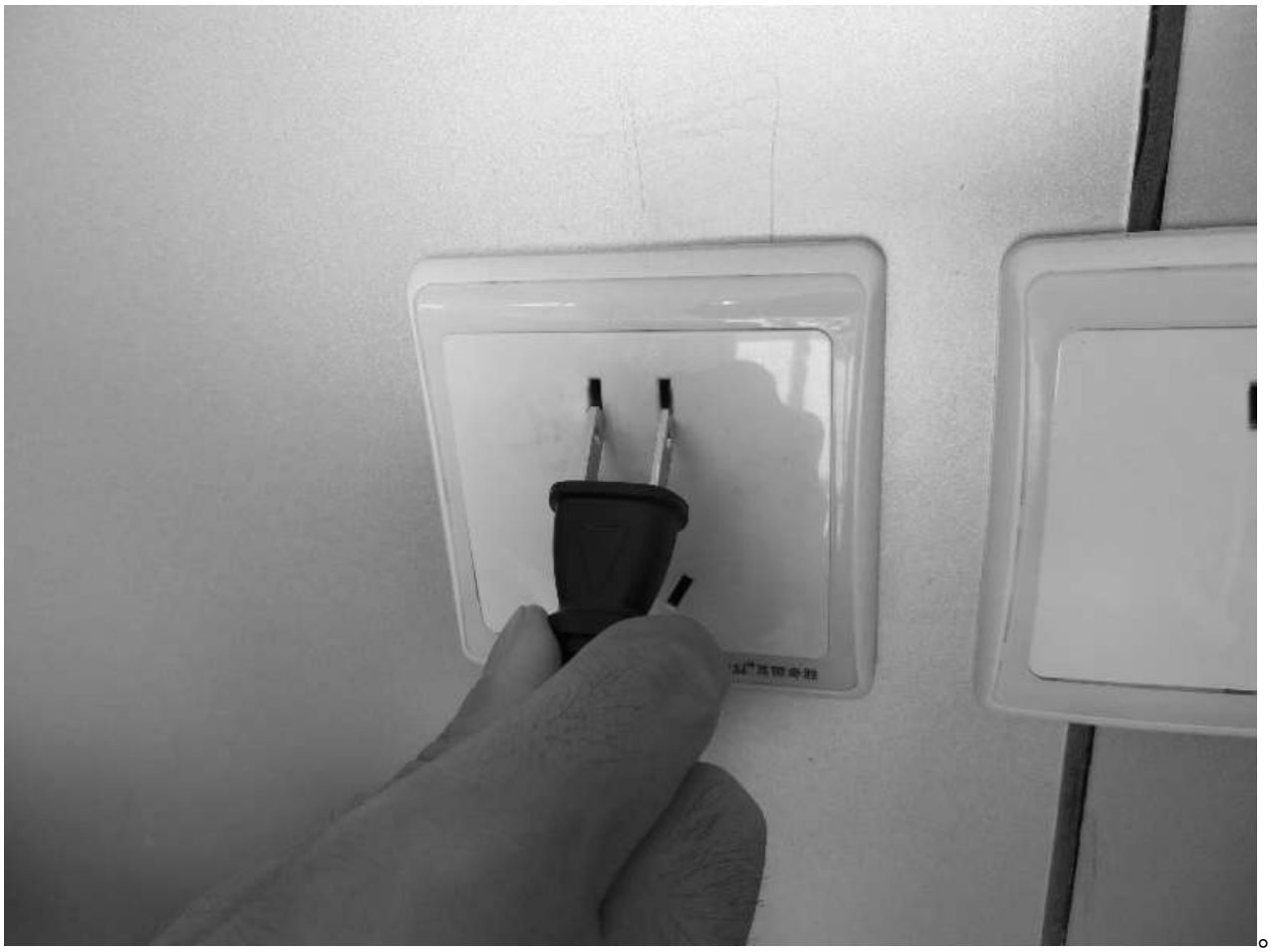
■写真のようにバッテリーケーブルを外しゆっくりと引き抜きます。

＜充電器を準備します＞

■写真のように 100V 用コンセントプラグコードを充電器に挿します。

■写真のようにバッテリー側充電口カバーをスライドさせます。

■写真のように充電コネクターをバッテリー充電口に差し込みます。



。

■写真のように充電器側 100V コンセントを挿します。

＜充電器が自動的に開始します＞

■バッテリーに充電コネクターを挿す→10V コンセントに挿す事で自動的に充電が開始されます。必ずバッテリー充電コネクター→100V コンセントの順に接続してください。逆にするとバッテリー充電器が壊れる場合が御座います。
■充電は状況により異なりますが 2～6 時間ほどで満充電となります。満充電になると充電は自動終了します。
■充電ランプが赤から緑に変わったら充電完了です、充電の逆の手順で各コネクターを外してください。
■充電が完了したらバッテリー取り外しの逆の手順でバッテリーを自転車に装着して下さい。

＜お願い＞

■充電は高温多湿や燃えやすい物のそばを避け風通しの良い所で充電して下さい
■バッテリーは横に倒して充電しするなど安定の良い状態で充電して下さい。
■初めて乗る場合や 2 週間以上以上乗られない場合は。必ず充電してください。
■充電時の周囲の温度は、0℃～30℃の場所で充電してください。
■充電器やバッテリーは水やホコリがたまらないようお願いします。
■充電直後の再充電は、お避け下さい。
■使用しなくても 1 ヶ月に一度は充電して下さい。

乗るまえの点検

＜警告！乗るまえの点検は、必ず実施する。＞

■サドルシートポスト(限界線を越えていないか、しっかりロックされているか)
■ベル(よく鳴るか)
■ハンドル、ハンドルステム(限界線を越えていないか、しっかりロックされているか)
■ブレーキ前後(良く効くか、ワイヤーの錆びほつれはないか、レバーの固定は確実か)
■フェンダー(がたつきはないか、タイヤに当たっていないか)
■バッテリーラット(点灯するか、がたつきはないか)
■前ブレーキ、後ろブレーキ(遊びは適切か、パット、シューはすり減っていないか)
■スポークリフレクター(割れやガタはないか)
■前後ハブナット(車輪にがたつきはないか、締め付け確認)
■リアキャリア(固定は確実か)
■バッテリー(正しく取り付け固定されているか)
■ペダルクランク(がたつきはないか)
■チェーン(空回りしないか、小石が挟まっていないか、歯飛びはないか、遊びは適切か)
■車輪(リム、スポーク、ハブにがたつき、曲がり、変形はないか　タイヤ空気圧は適正か)
■モーター(取り付けにゆるみがないか、チェーンテンショナーは円滑に上下するか)
■SHIMANO ギアー1～6 段は円滑に作動するか

さあ、乗りましょう！
＜バッテリーを装着する＞

■自転車に充電済みバッテリーを装着します。

■バッテリーケーブルをバッテリーに差し込みます。（しっかりと押し込んで下さい。）

＜バッテリーを ON にします。＞

■写真のようにカギを右に押し回し ON にします。（ロックが正常な位置に有る事して下さい）

＜手元スイッチの使い方＞

■写真中央電源ボタン 1 秒ほど押しと ON もう一度押すと OFF
■電源 ON の状態で MODE ボタンを押す事に LOW(点灯)→MED(点灯)→HIGH(点灯)と切り替わります。もう一度押すと LOW、MED、HIGH 全てのランプが消灯します。この状態でフル電動アクセル走行が可能となります。
※LOW、MED、HIGH 全てのランプが消灯しないかぎりフル電動モードにはなりません。
※公道 OK！アシスト自転車にはフル電動モードはありません。全てが消灯した状態では OFF となります。
■LOW モーターの出力を抑えます、平地や速度がのってきた場合にご使用ください
■MID 通常はこの状態でご使用ください。
■HIGH モーターの出力を上げます、坂道や荷物が多い場合のこぎ出し時にご使用ください。
■EMPTY ● ● ● FULL　バッテリーは満充電で良好です
■EMPTY ● ● ● FULL　バッテリーは良好です
■EMPTY ● ● ● FULL　バッテリー残量が少なくなってきました、又はモーターに高負荷がかかっています。
■EMPTY ● ● ● FULL　バッテリーを空になりました、又は電源が OFF です。
注意：上記はバッテリーケーブルがバッテリーに装着しバッテリーカギを右に回し ON 状態で行ってください。

＜ペダルを起こします＞

■写真のようにペダルを起こします。

＜ペダルをたたみます＞

■写真のように矢印方向へロックを引きペダルをたたみます。

＜スタンドを上げてサドルにまたがる＞

■左右安全確認をし、ペダルを踏んで発進する。
■けんけん乗り(けり乗り)しない、必ずサドルにまたがって、発進してください。

＜お願い＞

■電源が入らない場合はバッテリーケーブルの確認、動作モードの再確認をして下さい。
■慣れるまでは、踏み込み始めのアシスト力に注意して下さい。

＜荷物を積むとき＞

■フロントバスケット 積載重量:3kg まで
■リアキャリア 高さ:30cm まで 幅・長さ:キャリアの幅・長さ＋10cm まで 積載重量:15kg まで

＜変速のしかた、ヘッドライトスイッチ、アクセルグリップ＞

■①レバーを押す。ペダルをこぎながらチェーンが駆動している状態でレバーを押すと
６→５→４→３→２→１と変速します。
■②ボタンを押す。こぐのをいったん止めボタンを押すと１→２→３→４→５→６と変速します。
■③ヘッドライトスイッチ　ー:ライト ON　　〇:ライト OFF

＜変速機の上手な使い方＞

■平地を走るときは変速機を２でスタート３で又は４で走行、パワーは LOW 又は MID
■上り坂を走るときは１又は２でスタート　２で走行 パワーは MID
■急坂を登るときは１でスタート登り切るまで変速はしない。　パワーは HIGH
■下り坂を走るときは　１または２でブレーキをかけながらゆっくり走行　パワーは LOW

＜警告！変速のしかた＞

■SHIMANO ディレイラー、変速機の調整、点検を必ずして下さい。
■スピードをだしすぎない。
■変速は、一度に 2 段以上しない。(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒する恐れがあります。またチェーンが脱落し故障する恐れがあります。)

＜ブレーキのかけかた＞

■後ろブレーキ(左)を先にかけてから前ブレーキ(右)をかける。
■下り坂手前では、ブレーキテストを行って下さい。

＜乗ったあとの駐輪＞

■手元スイッチの電源ボタンを押して、電源を切る。
■スタンドをたてる。スタンドロックをかける
■バッテリーカギを左回し OFF にする。

定期点検

＜警告！＞

■定期点検は必ず実施する。
■ブレーキワイヤー・変速ワイヤーは、異常がなくても 2 年に 1 回は、交換する。
■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換する。
■ブレーキは残りの厚みが 1㎜ になる前に交換する。

＜アフターサービスについて＞

■弊社組み立て検査済み以外は欠品、破損を含め保証対象外となりますがご不明な点は必ずお知らせ下さい。
■点検、整備がご不明な場合は弊社にて承ります。